

フードパントリーことぶき…毎月第2火曜日
寺子屋ことぶき…毎週水曜日15時～19時
時間 541・1635※要問合せ



お寺と地域の皆さんで こどもや独居の家庭を支援。

寺 命院では3年前からフードパントリーを行っている。大護昇樹さんが中心となり、北本市社会福祉協議会や地元の民生委員さんの協力を得て、希望世帯に食材などの物資を毎月提供。「最近近所の方や檀家さんからも野菜や果物、お菓子等をいただくようになりました」と昇樹さん。物資を世帯ごとに仕分けするのは民生委員の皆さんだ。「お子さんが段ボールをのぞき込んで嬉しそうな顔をするのが可愛いんです」と話す。利用者の多くは子育て家庭だが一人暮らしのお年寄り等、必要とする人には幅広く応えたいと皆さんは言う。

また、『寺子屋ことぶき』ではこどもたちの学習支援も行っている。英語などを教える大護礼子さんは、「勉強だけでなくハロウィンやバレンタインのような季節のイベントも一緒に楽しんで、学びや体験の格差を少しでも無くしたいと思っています」と語ってくれた。

平日昼間の学校外の こどもと大人の居場所。



息 子の学校外の居場所を求めて、市外の活動に出かけて仲間づくりをしていたんです。北本にもこういう場所がほしいねって息子と話したのがきっかけでした」と話すのは、高橋明日実さん（写真左）。北本にも学校外の居場所を必要とする子がいるの思いから、余った食材などを持ち寄って始めた

なかにわスクウールウ

毎月第2・4木曜日 場 北本団地「中庭」(栄7・1・26・102)
☎ nakaniwaschool@gmail.com Instagram: @nakaniwa_school



のが『なかにわスクウールウ』だ。こどもたちは、外で鬼ごっこをしたり、中で漫画を読んだり、たこ焼きを作ったり、のびのびと過ごしている。「団地は車が入ることも無く、地域の大人たちもときどき相手になってくれるので、安心して遊べる環境です」と明日実さんは言う。まちの大人へのイ

ンタビューやデイキャンプなどの企画を行うこともある。「学校に行かないことで孤立しがちなこどもや保護者の皆さんにもこの場所を知ってほしい。こどもたち同士の交流の中で、成長することもあります。疲れた子やその保護者さんがちょっとお休みして、情報交換したり、安心してありのままで居られる場所にしたいです」。

「地域の皆さんにも、こういう場所があるんだってことを知ってほしいです」



自チームのボールを投げてジャックボールとの距離を競う「ポッチャ」。こどもたち同士で白熱することも▶



温かい食事 こどもと親を助けたい。



ひなとま食堂

時間 第1～3金曜日の15:00～18:00
場 ハイワールド!! (深井6-87)
※第4・5金曜日は鴻巣人形自治会館
☎ 514-0935 (田中)
Instagram: @hinatoma.kodomo
★ボランティア・食品等の寄付募集中!



↑
「イワールド!!で開催する『ひなとま食堂』は、wi・fi完備でイスとテーブルも多くあり、おもちゃを広げて遊べるスペースやパラスポーツ「ポッチャ」の体験もできる。一番の特徴は、受付でおもちゃの10円玉が渡され、お菓子やジュースの買い物に使えること。片付けや宿題をやって見せると、さらに10円が貰える。「与えられるだけでなく、自分で生き抜く力を身につけてほしい。自分のやったことを見てもらえると、こどもも喜ぶんです」と代表の田中沙友里さんは語る。

午後5時半からカレーの提供が始まると、親子や友だち同士でテーブルを囲む姿があちこちに見られる。一人で来ている子も、ここで知り合いや友だちを増やし、楽しみながら食事する。

田中さんは、こどものころに家でご飯が食べられず辛い経験をした。今の子どもたちは、温かいご飯をみんなで食べてほしい。との思いでひなとま食堂を立ち上げた。教師や保育士の経験者、警察OB等にボランティアに入ってもらい、こどもと保護者の悩みにも対応できるようにしている。「今通ってきている子たちが中学生、高校生になっても立ち寄れるよう続けたい。困ったことがあったら絶対に力になります」。今後は、ここに来られない家庭にお弁当を届けるなど、さらなる支援も考えているという。

「悩むならここに来てほしいと思います。この場所は誰かの力になればと思って作りました」